

2021 年度 京都教育大学附属桃山中学校 学校評価

| 自己評価 |              |
|------|--------------|
| A    | 十分達成できた      |
| B    | 概ね達成できた      |
| C    | 十分には達成できなかった |
| D    | ほとんど達成できなかった |

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

| 本年度の重点目標                            | 具体的な取組内容   | 自己点検評価   | 自己評価区分 | 学校関係者評価   | 改善策  |
|-------------------------------------|--|--|--------|---|--|
| (1)<br>教育方法と評価研究及び授業実践研究の推進         | <p>①新学習指導要領の全面実施に対応した教科、領域における指導の充実と評価の研究を推進し、新しい時代に必要な資質・能力の育成のために授業の工夫と改善を行う。特に「深い学び」を生み出す授業づくりと「授業研究」のあり方について、学校全体の研究体制を整備して実践研究を進める。</p> <p>②本学教員及び他大学の研究者の指導助言を得ながら、授業研究と開発を行い、その成果を研究発表会等で広く地域に発信する。</p> | <p>①授業づくりの視点として、生徒が「学びの展望」を持てるよう課題の設定と協働的で探究的な学習及び振り返りを着実に行うことで、深い学びの成立を目指した。全教科、全教員が計画的に公開授業を行うことができた。</p> <p>②本学教員及び他大学の研究者の指導助言を得て研究実践を進めたが、11月19日の研究発表会については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からオンラインで授業動画を公開し、ズーム（Zoom）を用いて研究協議を行い、全国の教育関係者に発信することができた。</p>    | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校体制で継続的に「深い学び」を生み出す授業改善に努めている。研究体制及び実践内容でも全体での統一が図られ、改善がみられる。</li> <li>・京都教育大学や京都府・京都市教育委員会から指導助言者を派遣してもらい、他大学の研究者とも連携して継続的な指導を受けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・他校の研究発表会に参加し、優れた実践や大学の研究者の指導助言を得ながら、研究授業や研究協議のあり方について改善を重ねていく。</li> </ul>                    |
| (2)<br>本学、附属学校園との連携・協働、実践研究、教員養成の充実 | <p>①プロジェクト研究等の実践的教育研究を大学教員と連携して行う。本校独自の帰国生徒教育や総合的な学習等の特色ある教育活動の充実と発展、及び各教科や領域におけるカリキュラム開発や実践研究を行う。</p> <p>②附属幼稚園、附属桃山小学校と「問いを持ち、学び続ける子」の育成を目指して幼小中連携教育研究の充実発展に取り組む。</p>  | <p>①学長裁量経費プロジェクト研究としてMI（マルチプル・インテリジェンス）を活用した単元・授業づくりに取り組み、大学教員の指導助言等を受けて実践を進めることができた。帰国生徒学級におけるスピーチ発表や伝統文化体験学習の充実を図ることができた。総合的な学習「MET」の講座内容の開発と充実を図ることができた。</p> <p>②幼小中の統一主題のもと、大学研究者の指導助言及び講演を受けて各ワーキンググループで公開授業を単元で構成し、1月29日の研究発表会をオンラインで実施した。</p> | B      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に理科や音楽で大学教員との共同研究を実践し、本校研究における授業改善への指導助言及び本校独自の帰国生徒教育の特色づくりに活かされている。</li> <li>・三校園教員による合同研究会を月1回開催し、統一した研究主題のもと教員間交流や実践研究を行った。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校研究に直接寄与できるテーマでプロジェクトを計画し、本校の特色ある教育活動の充実につながる教科及び領域において積極的に大学教員に指導を仰ぎ、実践研究に取り組む。</li> </ul> |

|                                       |   |   |          |   |  |
|---------------------------------------|---|---|----------|---|--|
| <p>(3)<br/>深く豊かに学び、人として成長できる学校づくり</p> | <p>①質の高い、確かな学力を保障するとともに、「深い学び」を生み出す授業開発と共に、学習規律、学習環境の整備と充実に取り組む。</p> <p>②道徳教育、特別活動等の充実を図り、お互いの人権が尊重され、自己肯定感、自尊感情、規範意識が育まれる学級、学年、全校集団づくりを推進する。</p>   | <p>①「学びの展望によって生み出す深い学びの研究」をテーマに全教員で授業改善を行い、それを支える学習集団づくりに努めた。生徒会によるベル着運動やいじめ防止運動等を行った。</p> <p>②道徳の時間や学級活動を中心に人権意識の向上を図るとともに、人権集会を実施した。生徒会主催のキャンペーンや集会などに積極的に取り組み、代表が文部科学省いじめ問題子供サミットに出席して発表を行った。達成感のある活動を展開できた。</p> | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナによる欠席者に対応するため、ICTの活用を一気に進めた。</li> <li>・文部科学省の「いじめ問題子供サミット」に生徒会本部が積極的に参加し、発信できるほどの成果を上げている。人権尊重の啓発を積極的に展開している。</li> </ul>       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート等を通して、生徒、保護者が何を望んでいるかを把握し、学校全体として日々の授業改善、学習環境の充実と整備を行う。</li> </ul>  |
| <p>(4)<br/>校内の危機管理の確立と安心・安全な学校づくり</p> | <p>①日常的に生徒の行動や精神面での様子の把握に努め、教員間の情報共有と迅速な対応により問題事象の未然防止に努める。また問題事象を確認した場合は、迅速に情報共有を行い、一致した指導方針で解決を図る。</p> <p>②学校安全計画に基づき、避難訓練等を計画的に実施すると共に、生徒及び教職員の防災意識の向上につながるよう、これまでの目的及び内容の見直し、生徒指導方針及びマニュアル等の改善を進める。</p> | <p>①学級担任が全生徒との定期的な教育相談を実施した。いじめアンケートや生徒会の人権アンケート等で問題事象を把握し、いじめの未然防止、早期対応に努めた。</p> <p>②避難訓練、不審者対応訓練を行ったが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からグラウンドへの避難は見合わせた。地震を想定しての訓練を事前に通知せず実施したが、生徒達は必要な対応をとることができていた。</p>                       | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、保護者とも楽しい学校生活を送ることができていると評価している。今後も継続的な取り組みを期待したい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大により十分な避難訓練になりにくいのが、結果として生徒が具体的なイメージを持てていた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員が連携して日々の生徒の様子の把握を確実に行う。情報を共有し、有効な対応をとる。</li> <li>・生徒が避難訓練等に真剣に取り組むよう動機づけを丁寧に行う。</li> </ul>                            |
| <p>(5)<br/>学校と生徒・保護者との信頼関係の構築</p>     | <p>①教員間の情報共有と指導の統一及び教員研修の充実を進め、生徒一人ひとりへの指導、支援を丁寧に確実に実行し、保護者との連絡、連携を密に行う。</p> <p>②学校HPや学校・学年・学級便り及びメール配信等、また懇談会や育友会等を通して、本校の教育活動についてより効果的に情報提供を行う。</p>   | <p>①普段から生徒とのコミュニケーションを丁寧にとり続ける取り組みを継続した。教員間の情報共有を行うとともに、保護者との連絡、懇談を丁寧に対応できた。</p> <p>②本校HPや学校便り、学級通信等で学校の教育活動や生徒の様子について情報提供を行った。</p>   | <p>A</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の人権を尊重しつつも、必要な指導を毅然として実施している</li> <li>・学校便りを毎月発行するなど、積極的な情報発信がなされている。本校ホームページでの行事予定掲載や早めの更新を期待する。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の効率化を図り、余裕をもって生徒とかかわることができるよう努める。</li> <li>・本校の特色を効果的に伝えることにより、広報としての機能を持たせる。落ち着いた学校生活を送れるために適切な情報を早く伝えていく。</li> </ul> |

2021年度 京都教育大学附属桃山中学校 学校評価

| 自己評価 |              |
|------|--------------|
| A    | 十分達成できた      |
| B    | 概ね達成できた      |
| C    | 十分には達成できなかった |
| D    | ほとんど達成できなかった |

② 附属学校園の機能向上に関する事項

| 本年度の<br>重点目標                            | 具体的な取組内容  | 自己点検評価  | 自己<br>評価<br>区分 | 学校関係者評価  | 改善策   |
|---|---|---|----------------|--|---|
| 教育実習指導のより一層の充実及び教育実習の改善<br>(中期計画 35)    | ①大学の实地教育運営委員会と協働し、教育実習指導や実習評価の改善に取り組む。<br>②本校での教育実習生に対するオリエンテーション内容の充実を図る。                  | ①实地教育運営委員会や附属学校実習指導研究部会と連携し、感染拡大防止対策を講じながら、できる限り通常と同じ実習ができるよう努めた。<br>②従来通り事前教育を複数の教員が多様な視点で分担することで、多面的な生徒理解や中学校実習への心構え等、内容の充実を図ることができた。 | A              | ・実習生の授業に工夫が感じられ、実習指導がよく行われている。                                       | ・大学の实地教育運営委員会との連携をさらに深め、実習生に成功体験を積ませる指導を充実させる。                                |
| 大学の方針に基づく教員養成及び実践的教育研究への協力<br>(中期計画 36) | ①大学教員、附属学校園の教員と協働して「桃山地区附属学校園（幼小中）連携教育研究」に取り組む。   | ①附属桃山地区学校園が協働して大学教員の指導助言を受けて幼小中連携教育に取り組み、研究発表会を実施することができた。  | B              | ・研究発表会への参加者の多さが研究の成果を物語っている。   | ・桃山地区三校園連携研究は一旦幕を閉じるが、連携を効果的、効率的に取り組む。  |
| 地域の教育力向上への貢献及び教育研究活動の成果の公表<br>(中期計画 37) | ①本学教育創生リージョナルセンター機構との共催、京都府・市教育委員会の後援により、研究発表会を開催する。<br>②地域や全国の教育委員会、学校関係者等の学校訪問を積極的に受け入れる。 | ①研究発表会はオンラインでの実施となったが、京都府・京都市教育委員会から指導助言者を派遣してもらい、研究協議を充実させることができた。<br>②今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止により2件が見合わせとなったものの、別に2件を受け入れた。              | A              | ・オンラインでの研究成果の発信はどうしても限定的になってしまう。<br>・教育関係者の視察研修の受入を工夫して実施したことが評価できる。 | ・京都府・京都市への依頼は継続し、積極的に連携を図る。<br>・生徒会部会、社会科部会、科学センターでの活動など、連携できている部分をさらに強化していく。 |
| 業務改善及び教職員の働き方に関する取組の推進<br>(働き方改革)       | ①部活動のあり方を見直し、部活動運営方針の策定、休養日の明確化とともに教員の業務改善を図る。<br>②校務の効率化、適正化に向けた行事活動の見直し、改善、精選を進める。        | ①部活動顧問として、ガイドラインに沿った部活動のあり方や休養日の設定が定着できた。<br>②新型コロナウイルスの感染拡大に対応するためデジタル化を急激に進めたことが負担になった。   | B              | ・デジタル化に苦労したが、今後につながる苦労になる。   | ・教職員が余裕をもって活動できるように行事等の見直し、改善、精選を推進する。  |